

令和5年度第1回日本大学理工学部における教育活動に関する  
外部評価実施報告について

理工学部内部質保証推進委員会  
理工学部自己点検・評価委員会

## 1 実施目的

卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者の受け入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)の3つのポリシー及びこれらに対する取組の適切性・妥当性等に対する外部評価を行い、本学部における教育活動のPDCAサイクルを確立し、教育の質保証及び向上に資することを目的とする。

## 2 外部評価者

- 委員長 岸井 隆幸 (日本大学名誉教授)  
委員 三澤 史子 (船橋市教育委員会生涯学習部長)  
委員 藤本 浩正 (日本信号株式会社業務執行理事 (総務部・人事部担当))  
委員 中島 佑実 (横浜市立戸塚高等学校教諭)

## 3 外部評価項目及び方法

### ① 評価項目

#### 【理工学部及び大学院理工学研究科】

- (1) 教育課程・学習成果 (ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー)
- (2) 学生の受け入れ (アドミッション・ポリシー)
- (3) 学生支援
- (4) 社会連携・社会貢献

### ② 評価方法

- (1) 外部評価者は、本学部で実施した自己点検・評価結果に基づき評価を行う。
- (2) 評価を行うに当たり、外部評価者と本学部で意見交換及び質疑応答を行う場として協議会を開催する。
- (3) 外部評価者は、評価の結果、優れている点や改善を必要とする点等を評価結果としてまとめるとともに、外部評価項目の取組評価を4段階で評価する。  
(A：十分出来ている、B：概ね出来ている、C：一部改善が必要、D：出来ていない)

## 4 外部評価実施スケジュール

- |           |                               |
|-----------|-------------------------------|
| 令和5年5月    | 外部評価実施方法を決定                   |
| 令和5年7月    | 外部評価者へ本学部の自己点検・評価結果をまとめた資料を送付 |
| 令和5年8月30日 | 本学部駿河台校舎にて協議会開催               |
| 令和5年10月中旬 | 外部評価者から評価結果提出                 |

## 5 外部評価協議会の議事録及び外部評価結果について

別紙「外部評価協議会議事録」及び「外部評価結果」のとおり。

以 上

令和5年度日本大学理工学部における教育活動に関する  
外部評価協議会議事録（要旨）

1 開催日時 令和5年8月30日（水）午前10時～午前11時55分

2 開催場所 駿河台校舎10号館特別会議室

3 出席者

【外部評価者】

委員長 岸井 隆幸（日本大学名誉教授）

委員 三澤 史子（船橋市教育委員会生涯学習部長）

委員 藤本 浩正（日本信号株式会社業務執行理事（総務部・人事部担当））

【本学部】

青木 義男（理工学部長・内部質保証推進委員会委員長）

木村 元昭（理工学部（駿河台校舎）次長）

轟 朝幸（理工学部（船橋校舎）次長）

橋本 修（学務委員会委員長）

宮里 直也（大学院委員会委員長）

遠山 岳史（学生生活委員会委員長）

大沢 昌玄（自己点検・評価委員会委員長）

松原 麻美（教務課長）

森 大樹（学生課長）

牧野 宏司（庶務課長）

矢葺 未来（庶務課主任）

※外部評価者 中島 佑実（横浜市立戸塚高等学校教諭）委員は当日校務の都合により欠席となったが、協議会当日の資料を送付の上、9月6日（水）に本学部の取組について個別で説明を行い、質疑応答の上、意見を聴取した。本議事録には同内容についても記載を行っている。

4 内 容

青木理工学部長より挨拶の後、大沢自己点検・評価委員会委員長から今回評価いただく項目や意見をいただきたい観点等の説明を行い、公益財団法人大学基準協会が定める大学基準の「基準4 教育課程・学習成果」、「基準5 学生の受け入れ」、「基準7 学生支援」及び「基準9 社会連携・社会貢献」の各項目について説明を行った。

【説明者】

松原教務課長 「基準4 教育課程・学習成果」、「基準5 学生の受け入れ」

森学生課長 「基準7 学生支援」

轟学部次長 「基準9 社会連携・社会貢献」

（説明に対する外部評価者からの主な質問及び意見）

各基準について説明後、外部評価者から質疑があり、その後各基準に対する意見を聴取した。

### 【質疑応答】

質問：大学院博士後期課程の定員充足率が大幅に低いことについて、どのような問題が生じているのか。

回答：大学院については定員充足率によって補助金等に影響を及ぼすことは無い。大学院博士後期課程の定員未充足の状況は本学だけでなく、国立大学等も同様の状況であるが、現在は入学希望者が少ないため、定員と入学者数に開きがあり、適切な定員を検討する必要がある。

質問：大学院博士後期課程の定員充足を満たすためには情報発信・広報を行うだけでは難しいと考えるが、ほかに具体的な策は検討しているか。

回答：現在検討中ではあるが、留学生を積極的に受け入れ、就職先の確保等が必要と考えており、将来的には専攻数が多いので大括りする形での見直しも視野に入れている。

質問：学生支援の特色ある取組として「未来博士工房」の中で「人力飛行機」、「フォーミュラーカー」、「ロボット」を代表例として挙げた理由はなぜか。

回答：未来博士工房は平成19年に文部科学省の特色ある大学教育支援プログラムの特色GP（Good Practice 体験型実践教育）として採択されたことから始まり、学生達が本来持っている自律性と創造力を呼び覚まし、実践力と学問的能力を発展させる場として活動し、代表例として挙げた取組については本工房を立ち上げた時から中核を担っている。現在は、土木・電気系の工房等も設立され、工房数は8工房となっている。

質問：多様な学生に対する特別配慮、メンタルヘルス等学生支援が重要になっているが、どのような取組を行っているか。

回答：配慮を希望する受験生に対しては、受験時の配慮だけでなく、入学後の支援も想定した事前相談を学生支援室も含めた関係教職員と実施している。入学時以降に発生した特別配慮の希望やメンタルヘルス等については、学生支援室にて、カウンセラー、インテーカー資格を持つ学科相談員及び精神科医等と相談できる体制となっている。特別配慮が必要とされる場合には、本人、学生支援室及び関係教職員との協議等を経て実施している。

質問：本学アメリカンフットボール部の一連の事件において理工学部は直接関係ないが社会では日本大学として1つで見られるので、学生の就職活動等に影響が出ないように、今後より丁寧な対応・情報発信が求められるのではないか。

回答：理工学部として学生に不利益が出ないように最大限ケアしていくことが重要と考えており、引き続き危機感を持って対応を行っていく。

質問：船橋校舎には研究施設等が充実しているので地域住民にも発信してはどうか。

回答：船橋校舎で開催される学部祭や地域自治会のイベント等では地域住民の方にも開放しているが、今後より多くの方に本学部の研究施設を知っていただけるよう、情報発信・連携の強化を図っていきたい。

### 【意見】

①大学院博士後期課程の定員未充足を問題として捉え、定員充足に取り組むということであれば、日本大学の強みである社会とのつながり・共同研究等との連携を生かして社会人大学院生を確保していくのが良いのではないか。また、併せて御茶ノ水という立地も生かすことで社会人大学院生の確保にも繋げていくことも考えられる。なお、博士前期課程から博士後期課程にそのまま進学する学生が増えた場合は就職先の確保等の課題も生じてくる。

- ②いろいろな取組は行っているが、日本大学理工学部のカラコンコンテンツが見えてこない。「未来博士工房」は良い取組だと思うので、強みということであれば重点的に社会へ発信してはどうか。
- ③最近、より一層生徒個々に寄り添った支援が重要と高校教諭の立場で感じており、高校生の立場でも相談しやすいクラス担任制度は魅力的な制度であり、今後も安心して学生生活を過ごせるよう、より一層手厚い学生支援を期待する。
- ④企業の立場では、経済安全保障の重要性が増しており、いわゆる「ホワイトハッカー」等の人材が不足しているのでDX人材の輩出に力を入れていただきたい。
- ⑤船橋市と包括連携協定が締結され、生涯学習に関する取組等についても協議を進めているところであり、今後も各分野で連携が進むことが期待される。
- ⑥先日、船橋校舎で開催されたオープンキャンパスに訪問したが、学生の研究や学部取組について生き生きと活動している様子が見受けられた。また、船橋校舎には大規模な研究施設があり、理工学部の魅力の1つだと思うので、在学生・受験生に発信するだけでなく、地域住民にも広く発信していただきたい。
- ⑦社会連携・社会貢献について授業を通じて行っている取組もあり、適切な方法で行われていると評価できるので、今後も継続して取り組んでいただきたい。
- ⑧評価資料が多岐にわたっており、情報量が多くわかりづらい。また、ホームページについてもスマートフォン対応を意識し、全てスクロールをしないとわからない内容となっている。公表している資料の数も量も膨大であり、一目で確認ができるよう、民間企業で作成している「統合報告書」等を参考に情報発信の方法等検討が必要である。

木村学部次長から、本協議会でいただいた御意見及び外部評価者の皆様から御提出いただいた評価結果を踏まえ、今後本学部の教育活動の向上・改善に向けて取り組んでいくことを申し上げ、閉会となった。

以 上

令和5年度第1回日本大学理工学部における  
教育活動に関する外部評価 評価結果

外部評価者 岸井隆幸・三澤史子・藤本浩正・中島佑実

[基準4] 教育課程・学習成果

【点検・評価項目】

- ① 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。
- ② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。
- ③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
- ④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。
- ⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。
- ⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。
- ⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

① 評価できる点（伸長すべき点、取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学位授与方針」や「教育課程の編成・実施方針」は履修要覧や公式ホームページなど目につきやすい形で明示されており、教育目標達成のための効果的な授業や設備が設置されている。</li> <li>・多様な学生が入学する中で、パワーアップセンター（英語・数学・物理・化学の基礎講座及び個別指導、English Lounge）など多様な学習支援に取り組んでいる点は評価できる。</li> <li>・国内最大規模の研究施設を有しており、それらを利用できることは学生にとって恵まれた環境である。</li> <li>・ものづくり・ことづくりの実践の場となっている「未来博士工房」では、学生が知識・技術を習得するほか、チームでプロジェクトを推進する過程で創造性や実践力、リーダーシップを培っており、高く評価することができる。</li> <li>・入学前既修得単位認定制度があることは評価できる。</li> </ul>

② 問題点・今後の課題（改善すべき点、強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・博士前期課程の修了予定者を対象に大学院理工学研究科の満足度を調査し改善するための基礎データ収集を目的としたアンケート調査を実施しているが、定期的に外部の評価を受けるなどアンケート内容の妥当性を確認することも必要である。</li> </ul>

③ 報告書の記載内容に対する評価、コメント	ABCD 評価(※)
・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。	A
・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。	B
・誤字や脱字、わかりにくい表現はないか。	A
コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の報告書（令和4年度理工学部外部評価時提示資料）に比べ、専門用語等に注釈が付されるなど読みやすくなっている。今回示された大学院理工学研究科の部分については、「～していない」「該当しない」といった記述が多く見られた。評価の項目や視点がもともと学士課程を主な対象として作られており、大学院課程は想定外なのではないかと感じられた。</li> <li>・資料の量が膨大であり、すぐに必要な情報にたどり着かないため、学外向けに資料の見せ方に工夫することが必要。</li> </ul>

※ A：十分出来ている、B：概ね出来ている、C：一部改善が必要、D：出来ていない

[基準5] 学生の受け入れ

【点検・評価項目】

- ① 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。
- ② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。
- ③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
- ④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

① 評価できる点（伸長すべき点、取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受験生に対して、ガイドブックや公式ホームページなどいろいろなメディアを使って、学生の受け入れ方針等に関して公表しており、丁寧に説明されている。また、学生の受け入れ体制について適切に管理・点検・評価を行っている。</li> <li>・船橋校舎のオープンキャンパスでは、国内最大規模の恵まれた研究施設や緑豊かな学習環境のほか、熱意をもって学問に取り組む学部生・大学院生の生き生きとした姿を見ることができ、進学を検討している高校生や保護者のもとより、地域住民などにも、学部やキャンパスの魅力伝える格好の機会となっている。</li> <li>・大学院博士後期課程の充足率が低いことへの対応として、外国人留学生の受け入れを増やすため、英語のみで履修が可能な体制を整えるなど、工夫していることは評価できる。</li> </ul>

③ 問題点・今後の課題（改善すべき点、強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院博士後期課程の充足率の低さには、大学院博士前期課程に比べて大学院後期課程修了後の進路が限定的になるなど、日本社会全体の課題があるように思われる。改善のためには、既に取り組んでいる学部生・博士前期課程学生対象の説明会や情報発信、外国人留学生の受け入れ強化に加えて、日本大学大学院理工学研究科ならではの利点を活かした新たな方策や魅力発信が必要ではないか。</li> <li>・日本大学の卒業生の層の厚さ、校舎の都心立地等に鑑みると、大学院に社会人の受け入れをより積極的に行うべきであると考えられる。</li> <li>・丁寧に説明がなされている一方で、情報量が多すぎるので整理は必要であり、特に古い情報は削除する等わかりやすくする必要がある。</li> </ul>

③報告書の記載内容に対する評価、コメント	ABCD 評価(※)
・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。	A
・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。	A
・誤字や脱字、わかりにくい表現はないか。	A
コ メ ン ト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「大学院博士後期課程の定員充足が課題」とされているが、大学院博士後期課程の定員が充足されていないと具体的にどういう点で問題が生じるのか、博士後期課程の定員にどういう意味があるのか、よく理解できない。</li> </ul>

※ A：十分出来ている、B：概ね出来ている、C：一部改善が必要、D：出来ていない

[基準7] 学生支援

【点検・評価項目】

- ① 学生が学習に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう、学生支援に関する大学としての方針を明示しているか。
- ② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。
- ③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

① 評価できる点（伸長すべき点、取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な学生が入学する中で、「パワーアップセンター」・「公務員対策」・「未来博士工房」などの補充教育や自主的な学習を促進する仕組みがある点は評価できる。特に「未来博士工房」は、授業と連携した教育プログラムでありながら、学生の自由で創造的な活動を促し、例えば鳥人間コンテストに挑戦するような活動と単位修得の両立を可能にしている点で、学生支援としても高く評価できる。同工房については2007年（平成19年）に文部科学省の特色ある大学教育支援プログラム（特色GP（Good Practice 体験型実践教育））として、「未来博士工房による自律性と創造力の覚醒」が採択される等、良い取組である。</li> <li>・学部生・大学院生ともに、個に応じた学生支援（クラス担任制、カウンセラー・インターカー・内科医師・精神科医の配置等）を行っており、困りごとのある学生でも幅広く受け入れるという体制づくりが進んでいると感じた。</li> <li>・「日本大学インターカー制度」により、専任教員の過半数がインターカー資格を取得し、カウンセラー等の専門職とともに、障がいのある学生を含む学生の相談・支援に当たっている点は評価できる。</li> <li>・国の修学支援新制度及び貸与奨学金の利用勧奨のほか、給付型の本部・学部奨学金を多数用意し、多様な学生のニーズに応えている。</li> </ul>

② 問題点・今後の課題（改善すべき点、強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「社会人の学生」をより積極的に受け入れるための仕組みがさらに充実されることが望まれる。</li> <li>・未来博士工房を特色としてもっと押し出していきたい。</li> <li>・充実した学生支援体制は整えているので、ホームページ等で対外的により分かりやすく目につきやすい位置で学生支援体制を周知することが望まれる。</li> </ul>

③ 報告書の記載内容に対する評価、コメント	ABCD 評価(※)
・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。	A
・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。	A
・誤字や脱字、わかりにくい表現はないか。	A
コメント	・様々な取組を行っているが、理工学部としてのキラーコンテンツが必要だと思われる。

※ A：十分出来ている、B：概ね出来ている、C：一部改善が必要、D：出来ていない



[基準9] 社会連携・社会貢献

【点検・評価項目】

- ① 大学の教育研究成果を適切に社会に還元するための社会連携・社会貢献に関する方針を明示しているか。
- ② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。
- ③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

① 評価できる点（伸長すべき点、取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学の周辺地域にとどまらず、関連する自治体と協定などを結び、様々な地域と関わり、積極的な連携・地域貢献している点は評価できる。特色ある取組としては次の点である。</li> <li>(1)令和5年6月20日に、キャンパスのある千葉県船橋市と包括連携協定を締結し、従前からの様々な取組に加えて、ドローンを用いた人工海浜の海底地形測量調査等、大学の知的・物的資源を活かした貢献により、地域課題の解決に寄与している。</li> <li>(2)大学図書館とキャンパスのある千代田区立図書館、船橋市立図書館等とは相互利用の提携を締結しているほか、図書館公開講座の開催や展示・イベントでの協働など、大学図書館と地元自治体の図書館等が連携を深めている。</li> <li>(3)ふなばし市民まつりにおける子ども向け講演会やものづくり体験ブースの出展、船橋キャンパス周辺の自治体と連携したイベントや理科実験教室など、地域連携の中で子どもたちに理科の魅力を伝える取組を継続的に実施し、成功している点も高く評価できる。</li> <li>・授業を通じた社会貢献も行っており、学生に自然に社会貢献意欲が生まれる環境である点は評価できる。</li> </ul>

② 問題点・今後の課題（改善すべき点、強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・共同研究などを一歩進めて、社会人大学院生の増加などにも結び付けられるとよいと思われる。</li> <li>・現状に満足せず、社会連携・社会貢献については内容を拡充されることを期待する。</li> </ul>

③報告書の記載内容に対する評価、コメント	ABCD 評価(※)
・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。	A
・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。	A
・誤字や脱字、わかりにくい表現はないか。	A
コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無理なく社会貢献できる環境が整えられると良い。</li> </ul>

※ A：十分出来ている、B：概ね出来ている、C：一部改善が必要、D：出来ていない